

協議（1）

令和6年度 地域包括支援センター事業活動報告及び決算報告について

令和6年度は、新型コロナウイルス感染症をはじめ、基本的な感染症対策に引き続き取り組み、高齢者それぞれの環境や状態に応じてきめ細かい支援を心がけた。また、医療と介護の連携や専門職のチームアプローチ、情報の共有化によって、効果的で効率的な事業展開を図り、必要なサービスを提供できる体制構築に努めた。

1 令和6年度重点目標

（1）市民が安心して暮らせる「地域包括ケアシステムの構築」

- 住民主役の地域包括ケアシステムの深化を図ることを目指し、在宅医療・介護連携、認知症施策、地域における支え合い活動の推進等の取組を一層充実させる。
「地域力」や「仲間力」を高められるように地域社会との関わりを深める。

（2）専門職のチームアプローチによる取組の実施

- 総合相談支援業務及び介護予防支援事業など三職種が専門性を活かしながら相互に連携・協働する「チームアプローチ」を実践し、困難事例や地域課題に対応する。

（3）自立支援、重度化防止に資するケアマネジメントの徹底

- 自立支援型地域ケア個別会議等の活用により、高齢者が抱える課題を整理し、効果的な支援内容の検討を繰り返し行い、高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上に努める。

（4）認知症施策の推進

- 認知症初期集中支援チームと連携し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を強化する。また、認知症地域支援推進員は、認知症初期集中支援チーム等関係団体と定期的に情報交換を行い、認知症の人本人の発信支援を中心とした、認知症の人本人やその家族に対する支援策の充実を図る。

（5）在宅医療と介護の連携の推進

- 医療・介護関係者を対象とした研修会や会議を開催し、関係者の連携を推進するとともに、各種会議等で抽出した在宅医療・介護連携に関する課題に対する具体的な対応策を検討し、切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築に向け支援体制の充実を図る。

（6）地域における支え合い活動の推進

- 生活支援コーディネーター（以下「SC」という。）は、支援を要する高齢者と地域資源とのマッチングによる支援に努めるとともに、協議体を積極的に活用し、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を図る。

2 事業活動報告

(1) 各事業実績

業務名及び事業名	令和6年度実績
第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業対象者、要支援1・2のケアプラン作成を行った。 ① 介護予防支援の請求件数 <ul style="list-style-type: none"> ・月平均 1,119 件 ・延べ 13,423 件（一部委託含む。うち一部委託 4,235 件） ② 事例検討会を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・プラン会議にて2回実施 ・インフォーマル資源の活用や支援困難事例への対応等について協議 ③ 新規事業対象者を自立支援型地域ケア個別会議に提出 <ul style="list-style-type: none"> ・56 事例実施 ・多職種からの知見を活かし、自立支援に資するケアプランを作成 ④ 事業対象者の現状把握 <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の新規事業対象者の支援状況を振り返り、適正かつ効果的なケアマネジメントの実施に努めるため、3月に対象者の傾向や現状に係る課題を地域包括支援センター（以下「センター」という。）の職員間で共有 ⑤ 介護予防ケアマネジメントの評価及び実践力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所を含む計画作成者に対する研修会を7・12月に開催（7月：47人参加、12月：31人参加） ⑥ 自立支援・重度化防止に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・7月、「鹿屋市健康まつり」に参加し、介護予防・健康相談会を実施。3件の相談を受けた。併せてセンター周知を目的としたセンターだよりの配布を実施（配布数41部）
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務等	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護支援専門員への日常的な支援を継続的に行いながら、多職種連携を図り、随時、情報提供を行い、後方支援を行った。 また、多様な関係者と連携し地域ケア個別会議を開催、個別課題の解決及びネットワークの構築に努めるとともに、年間を通して自立支援型地域ケア個別会議に協力し、自立支援に資するケアマネジメントの実施に努めた。 ① 介護支援専門員連絡会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員連絡会（東部4回、西部3回、南部4回、北部3回） ・役員会 1回 ② 介護支援専門員の相談窓口案内のチラシ配布及びメールにて各関係機関からの情報提供 ③ 介護支援専門員へのサポート窓口（よろずや相談会）開催 <ul style="list-style-type: none"> ・市役所1階市民ホールにて相談会実施（7・11月） （相談件数 31件） ・介護老人保健施設介護支援専門員とのオンラインによる相談会実施（10月） （相談件数 6件） ④ 居宅介護支援事業者等の相談対応集約 42件

<p>包括的・継続的 ケアマネジメント 支援業務等 (つづき)</p>	<p>⑤ 包括内部研修として事例研究会を実施 ・ 3回実施(6・10・3月) 延べ36人参加 (居宅介護支援事業者を含む。1事例は居宅介護支援事業所より提供。)</p> <p>⑥ 地域ケア個別会議の開催 ・ 地域ケア会議15件、ケース検討16件</p> <p>⑦ 自立支援型地域ケア個別会議への参加 ・ 22回70事例</p>
<p>総合相談支援 業務</p>	<p>● 高齢者及びその家族等からの相談に対応しその相談内容や緊急度によって、社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員の三職種がチームとなり様々な相談に対応した。</p> <p>① 総合相談 ・ 実績 3,670件 ・ 延件数 13,684件 ・ 進捗会議の開催回数 4回(事例5件) ・ オンライン相談件数 0件</p> <p>② 地域におけるネットワークの構築 ・ SCと出前講座を共同実施 (30回実施 延べ参加人数 468人)</p> <p>③ 各相談窓口(市・基幹型)の連携・強化に努めた。 ・ 事業推進会議の開催(毎月)など</p> <p>④ 広報 「センター便り」6月発行(42,000部)を全戸配布</p>
<p>権利擁護業務</p>	<p>● 成年後見制度の活用、高齢者虐待の対応、消費者被害防止等に対応した。</p> <p>① 成年後見制度の活用と普及 ・ 市長申立て支援 3件 ・ 市内の全介護サービス事業所を対象とした制度説明 11/22 ・ シルバー人材センター訪問型サービスA従事者に対する制度説明 6/27 ・ 出前講座の実施 3回</p> <p>② 老人福祉法による措置に関する対応 ・ 0件</p> <p>③ 虐待に対する対応 ・ 対応件数54件(うち虐待認定19件) ・ 権利擁護の案件について定期的に市と進捗状況の情報共有を行った。 ・ 市内の介護サービス事業所を対象とした高齢者虐待防止研修を11/22に実施 104事業所の参加 ・ 県主催の高齢者虐待防止研修 10/25、26 1人参加 ・ 権利擁護推進養成講座 8/1(2人)、8/2(1人)参加 ・ シルバー人材センター訪問型サービスA従事者に対する制度説明 6/27 ・ 在宅福祉アドバイザーに対する高齢者虐待ケア研修 7/1、7/3～4 ・ 出前講座の実施 3回</p> <p>④ 困難事例への対応 ・ 社会福祉協議会や障がい者基幹相談支援センター等の高齢福祉分野以外の関係機関と連携し対応した。また、ケースに応じて地域ケア個別会議を開催し、重層的支援会議へ繋いだ。</p>

<p>権利擁護業務 (つづき)</p>	<p>⑤ 消費者被害の防止に関する対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護実務者会議にて、年3回、消費生活センターと、鹿屋市での最新の消費者被害について情報を共有 ・消費者被害の情報をSCから、民生委員定例会にて情報提供 ・消費生活センター及び警察署からの定期的な消費者被害情報の収集、消費者被害の相談対応件数 3件 ・出前講座の実施 3回 <p>⑥ 関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿屋市高齢者虐待等防止ネットワーク推進協議会への参加 1回 ・市権利擁護実務者会議への参加 3回 ・法テラス弁護士と連携した法律相談会を毎月開催し、計22件対応 ・月1回の社会福祉分科会において、市担当者と情報共有を実施 																		
<p>在宅医療・介護 連携推進事業</p>	<p>● 在宅医療と介護を一体的に提供するために、医療機関と介護事業所などの関係者の連携を推進した。</p> <p>① 地域の医療・介護資源の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料老人ホーム空床情報を定期的に更新し、情報共有を支援 <p>② 在宅医療・介護連携に関する対応策等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿屋市在宅医療推進検討委員会の開催 (11/27) 参加人数 15人 <p>③ 入退院等に関する相談対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数：129件 ・かかりつけ医がない方の支援：2件 <p>④ 地域住民への普及啓発の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ACP講演会の開催 (9/19) 参加人数 200人 (うち市民 128人) ・出前講座の実施 計12回 延べ参加人数 156人 ・ホームページを活用しての啓発活動を随時掲載 (住宅型有料老人ホームのアンケート集計表など) <p>⑤ 医療・介護関係者の情報共有の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県主催の大隅地域入退院支援ルール運用点検 <table border="1" data-bbox="454 1391 1329 1608"> <tr><td>4/26</td><td>入退院支援ルール連絡会</td></tr> <tr><td>6月</td><td>第9回入退院支援ルール運用活用状況調査 (電子入力)</td></tr> <tr><td>9/11</td><td>行政担当者会</td></tr> <tr><td>11/12</td><td>第1回入退院支援ルール手引き作業部会 (午前ケアマネ部門・午後医療部門)</td></tr> <tr><td>1/23</td><td>入退院支援ルール医療・介護合同会議</td></tr> </table> ・連携窓口担当者マニュアルの活用 <table border="1" data-bbox="454 1653 1329 1720"> <tr><td>5～7月</td><td>医療介護連携に伴う連携窓口担当者の確認・有料老人ホームアンケートを実施</td></tr> </table> ・在宅医療・介護連携の理解を促進する研修会の企画 <table border="1" data-bbox="454 1765 1329 1944"> <tr><td>9/19</td><td>ACP講演会の開催 参加人数 200人 (うち29事業所 72人)</td></tr> <tr><td>5/22 9/25 11/27</td><td>市内4医療機関のソーシャルワーカーとの連絡会を 定期開催</td></tr> </table> ・医療介護関係者に対する研修会への参加 <table border="1" data-bbox="454 1989 1329 2022"> <tr><td>10/5</td><td>第3回医療・介護連携講演会</td></tr> </table> <p>・MCS (ICT) の活用</p>	4/26	入退院支援ルール連絡会	6月	第9回入退院支援ルール運用活用状況調査 (電子入力)	9/11	行政担当者会	11/12	第1回入退院支援ルール手引き作業部会 (午前ケアマネ部門・午後医療部門)	1/23	入退院支援ルール医療・介護合同会議	5～7月	医療介護連携に伴う連携窓口担当者の確認・有料老人ホームアンケートを実施	9/19	ACP講演会の開催 参加人数 200人 (うち29事業所 72人)	5/22 9/25 11/27	市内4医療機関のソーシャルワーカーとの連絡会を 定期開催	10/5	第3回医療・介護連携講演会
4/26	入退院支援ルール連絡会																		
6月	第9回入退院支援ルール運用活用状況調査 (電子入力)																		
9/11	行政担当者会																		
11/12	第1回入退院支援ルール手引き作業部会 (午前ケアマネ部門・午後医療部門)																		
1/23	入退院支援ルール医療・介護合同会議																		
5～7月	医療介護連携に伴う連携窓口担当者の確認・有料老人ホームアンケートを実施																		
9/19	ACP講演会の開催 参加人数 200人 (うち29事業所 72人)																		
5/22 9/25 11/27	市内4医療機関のソーシャルワーカーとの連絡会を 定期開催																		
10/5	第3回医療・介護連携講演会																		

<p>在宅医療・介護 連携推進事業 (つづき)</p>	<p>⑥ 医療・介護関係者に対する事例発表、意見交換会の実施 ・在宅医療・介護連携推進事業における多職種連携研修会 (R7.6.10 に延期)</p> <p>⑦ 近隣市町のセンターや自治体との意見交換会、研修会の開催 ・曾於・肝属地区地域包括支援センター長等会議及び地域包括・在宅介護支援センター協議会研修の開催 (10/18) 出席者 22 人・Web23 箇所 計 68 人参加 「身寄りのない方への支援について」研修 「カスタマーハラスメントの対応について・困難案件について」意見交換</p>						
<p>認知症総合支援 事業</p>	<p>● 認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」と連携し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を強化した。 「認知症地域支援推進員」を配置し、認知症の正しい理解の普及に向けた活動や、他機関とのネットワーク構築、社会参加支援を行った。</p> <p>① 認知症に関する理解促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジだより (第 9 号) 発行 (8/28) ・認知症の日、認知症月間 (世界アルツハイマー月間) の取組 店舗での啓発活動 (3 か所)、ポスター掲示、パンフレット設置、 図書コーナー設置 (2 か所)、集いの場での PR、PR ティッシュ配布、 「オレンジカフェ・きほく」での PR、ラジオ放送、 オレンジガーデニング (10 か所)、懸垂幕、横断幕の掲出、 民生委員児童委員協議会地区定例会での PR (11 か所) ・認知症サポート医の講話及び介護予防教室 吾平地区 (7/2) 83 人参加 サポート医 新名主先生 広域支援センター 住吉先生、山内先生 ・相談窓口の周知 (サポートワーカーによるオレンジカフェ) ・地域活動紹介 SC による展示 ・出前講座の実施 13 回 延べ参加人数 186 人 <p>② 認知症の人と家族に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オレンジカフェ (にんにんカフェ) (月 1 回定期開催) 東地区学習センター 1 回当たり 3~14 人参加 当事者 2~5 人、家族 1~7 人、関心がある人 1~5 人参加 ・俳句作り等について、認知症の本人が講師となって参加者に教える機会を作るなど、本人が活躍できる場を設けたほか、必要に応じて相談対応を行った。 ・ほっと会 (3 回開催) 7/12: 2 人、11/12: 3 人、3/12: 3 人 ・関係機関との連携 <table border="1" data-bbox="456 1675 1441 1899"> <tr> <td>認知症の人と家族の会、 薬剤師会</td> <td>「ほっと会」助言者として参加</td> </tr> <tr> <td>認知症疾患医療センター</td> <td>「ほっと会」助言者として参加、 「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加</td> </tr> <tr> <td>SC、保健師・看護師分科会</td> <td>「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症の人と家族への支援 県若年性認知症コーディネーターとの連携 (情報共有、セミナー参加) 市と個別ケースの情報共有 ・関係機関向け研修会の実施 「ユマニチュードを学ぼう」DVD 視聴会 5 回 延べ参加人数 42 人 	認知症の人と家族の会、 薬剤師会	「ほっと会」助言者として参加	認知症疾患医療センター	「ほっと会」助言者として参加、 「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加	SC、保健師・看護師分科会	「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加
認知症の人と家族の会、 薬剤師会	「ほっと会」助言者として参加						
認知症疾患医療センター	「ほっと会」助言者として参加、 「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加						
SC、保健師・看護師分科会	「オレンジカフェ (にんにんカフェ)」に参加						

<p>認知症総合支援事業 (つづき)</p>	<p>③ 地域づくり ・声かけ訓練の参加及び協力 ・SCとの連携・情報共有</p> <p>④ その他 ・実務者会議への出席 (12回) ・研修参加 (4回) ・事業委員会への出席 (5回) ・検討委員会出席 (3回) ・SC合同会議への出席 (9回)</p>								
<p>生活支援体制整備事業</p>	<p>● 高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進する「SC」を配置し、高齢者の社会参加及び生活支援の充実に努めた。</p> <p>① 関係機関との連携 ・毎月11地区で開催される民生委員児童委員協議会地区定例会に参加 ・センターの業務の進捗や事例を市と情報共有 ・他市町村とのネットワーク構築 11/7 ふれあいネットワーク研修への参加</p> <p>② 訪問による顔の見える関係づくり並びに地域の特色や課題を把握 ・地域診断の視点で地域資源の必要性等を意識し聞き取りを実施 (2地区) ・2～3か月に1回は必ず訪問して情報収集及び情報提供を実施 ・地域資源の簿冊の管理及び更新</p> <p>③ 生活支援に係る実践活動の研究、活動事例検討等の研修等への参加 ・「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2024」への参加 ・高齢者の移送手段確保に関する研修への参加</p> <p>④ 地域資源の調査 ・資源の内容確認、リストの更新 ・地域資源調査表の活用 厚生労働省介護サービス情報公表システムへの入力、更新 ・民間の有償ボランティア調査等</p> <p>⑤ 出前講座の見直し ・講座内容の検討 (新しい講座) サロン参加者の年齢に合わせた内容の検討</p> <p>⑥ 支え合い通信の発行及びSCカフェ開催 8号…3/13発行 (今年度は1回発行)、SCカフェ…2/20～21開催</p> <p>⑦ 見守り隊、有償ボランティア、共生型常設型居場所、移動支援の仕組みや既存の資源等の情報提供 (これまでの実績)</p> <table border="1" data-bbox="443 1666 1197 1809"> <tr> <td>見守り隊</td> <td>37か所</td> </tr> <tr> <td>有償ボランティア</td> <td>10か所</td> </tr> <tr> <td>共生型常設型居場所</td> <td>9か所 (うち こども食堂7か所)</td> </tr> <tr> <td>乗合ワゴン</td> <td>3か所</td> </tr> </table> <p>・有償ボランティア団体の立ち上げ支援 立ち上げ予定地区の代表との意見交換を実施 上野町 (町内会) …4/1 吾平 (既存団体) …9/10 (団体会員のみ)</p> <p>⑧ 必要な人に必要な資源が届けられる体制整備 ・既存資源の紹介、調査、調整</p>	見守り隊	37か所	有償ボランティア	10か所	共生型常設型居場所	9か所 (うち こども食堂7か所)	乗合ワゴン	3か所
見守り隊	37か所								
有償ボランティア	10か所								
共生型常設型居場所	9か所 (うち こども食堂7か所)								
乗合ワゴン	3か所								

<p>生活支援体制整備事業 (つづき)</p>	<p>⑨ 興味のあるような市民向けの地域支え合い勉強会等を開催し、担い手を養成 社会福祉協議会主催のサロン交流会への参加、相談支援</p> <p>⑩ 協議体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層協議体 8/16、2/14 ・第2層協議体 地域福祉協議会や地域ふれあい会議と連携 高隈地区 5/14、9/19、11/11、2/5 輝北平南地区 5/16、7/11 西祓川地区 7/27 <p>⑪ S C会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況の報告や今後の活動計画の確認、課題解決に向けた検討 S C合同会議 (11回) S C会議 (38回) <p>⑫ 社会福祉協議会の地域福祉担当者と定期的に情報交換を行い、効率的な地域活動等の支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回のS C会議への参加及び地域福祉協議会への参加 <p>⑬ 認知症地域支援推進員との協力・連携 オレンジカフェ、ほっと会、サポート医の講話等開催への協力</p>
-----------------------------	--

(2) その他

項 目	内 容													
<p>関係機関との連携</p>	<p>○鹿屋市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業推進会議 (月1回)、総合相談進捗会議 (概ね2か月に1回) において、各事業の進捗状況確認や課題懸案事項の共有・検討 また、10月には、鹿屋市医師会も交えた総合調整会議を開催し、センター運営、組織、予算編成等について協議 <p>○業務提携法人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出向者の調整を含めた業務提携上の調整を行うための業務提携法人会議を開催 													
<p>研修機会の確保</p>	<p>○全体会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター運営方針、年度重点目標・重点事業等を議題とした全体会議を12回 (月1回) 実施 <p>○外部研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の更なる資質向上を図るため外部研修 (新カリキュラムワーキング検討会外50講座) に参加 													
<p>実習生の受入れ</p>	<p>○地域医療の現況や問題点の理解・考察を行う実習生の受入れを行った。</p> <table border="1" data-bbox="450 1675 1327 2002"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>受入者数</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鹿屋看護専門学校</td> <td>32人</td> <td>4/15~19、4/22~26、5/27~31、9/9~13、9/24~27</td> </tr> <tr> <td>30人</td> <td>7/1~12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鹿屋市薬剤師会</td> <td>7人</td> <td>7/30~8/1</td> </tr> <tr> <td>1人</td> <td>3/4~7</td> </tr> </tbody> </table>	名称	受入者数	日程	鹿屋看護専門学校	32人	4/15~19、4/22~26、5/27~31、9/9~13、9/24~27	30人	7/1~12	鹿屋市薬剤師会	7人	7/30~8/1	1人	3/4~7
名称	受入者数	日程												
鹿屋看護専門学校	32人	4/15~19、4/22~26、5/27~31、9/9~13、9/24~27												
	30人	7/1~12												
鹿屋市薬剤師会	7人	7/30~8/1												
	1人	3/4~7												

3 令和6年度決算報告

単位:千円

事業名		予算額	決算額	差異	主な増減理由
包括的支援事業	合計	167,709	150,529	17,180	(残) 職員人件費 (残) 通信運搬費、 保険料等
	職員俸給等	139,293	125,384	13,909	
	事業費	28,416	25,145	3,271	
在宅医療・介護 連携推進事業	合計	4,270	3,637	633	(残) 旅費交通費、 印刷製本費等
	職員俸給等	2,846	2,708	138	
	事業費	1,424	929	495	
認知症総合支援 事業	合計	5,610	4,691	919	(残) 印刷製本費、 図書研修費等
	職員俸給等	3,722	3,582	140	
	事業費	1,888	1,109	779	
生活支援体制 整備事業	合計	35,110	32,633	2,477	(残) 旅費交通費、 印刷製本費等
	職員俸給等	11,403	10,165	1,238	
	事業費	23,707	22,468	1,239	
合 計		212,699	191,490	21,209	(歳入) 予算額 212,699 千円 決算額 215,396 千円 差 額 ▲2,697 千円

歳入 **歳出** **執行残**
【収支差額】 215,396 千円 - 191,490 千円 = 23,906 千円